

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500606		
法人名	株式会社 ケアサービスドワン		
事業所名	グループホーム ハッピードワン 1F		
所在地	〒041-1112 亀田郡七飯町鳴川3丁目26番13号		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議の中で、地域の高齢化が進んでおり、お買い物に不便な方がいるか現状を把握しボランティアお買い物バスを提案し取り組んでいる。誕生会は、ご本人、ご家族に、どのように過ごされたいか伺い、自宅に外出して手料理を召し上がったり、外食したり、家族が遠方にいる方は、本人に食べたい物など希望を伺い、それぞれの思いを反映している。「地域で暮らす」をモットーに町内の夏祭りに参加したり、お祭りでは神楽や神輿が来てくださり、間近で観ることができたり、小学校の運動会や学習発表会に招かれ、プレゼントを贈呈したりし、交流を継続している。またスタッフのレベルにあわせた研修等に参加しスキルアップをはかっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171500606-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171500606-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月29日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所は定期的に運営推進会議を開催し、議題により専門職の参加を求め提案や意見を基に話し合いを行っている。議題の「ボランティア(お買い物)バス」アンケート実施の話し合いでは、専門職の大学教授・大学生を招き、活字の大きさ・配列またアンケート配布・回収方法などきめ細かな話しを交えながら取り組んでいる。毎月のハッピー通信では写真・行事報告または、事業所からのお知らせ・お願いなどの掲載のほかに、「ご家族へ」の欄が設けられ利用者本人による家族への手紙・絵など自由に描く箇所がある。一人で書く人、職員とともに書く人、それぞれであるが利用者や家族を結ぶ大切な欄である。事業所の特に素晴らしいところは、児童下校時のパトロール見守りである。利用者と職員は下校時間に合わせ近くのコンビニで、児童たちを笑顔で迎え声掛けを行い下校の安全確認と見守りを行っている。お互い顔見知りになり七夕行事には大勢の子供たちが事業所に立ち寄り、学校行事の運動会・学習発表会には利用者が招待され交流を深めており、今後も大いに地域との関わりが期待できる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「もうひとつの家もうひとつの家族づくり、1人ひとりその人らしい普通の暮らし。地域や自然仲間の力を生かしたくらし」という事業所独自の理念をかかげており、理念は目のつくフロアに掲示している。又、日々の会議の中でも話し合い、スタッフのネームの裏にも記載し常に意識している。	開設時より、地域との関わりを理念に掲げ、事業所内掲示や職員ネームの裏面に記入し、いつでも理念を意識した介護が行えるように目指している。また、管理者と職員で話し合い、目標を作成し取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日頃近所の散歩や、スーパー等への買い物に行っている。また玄関横に苺や花を植えている。認知症についての勉強会等のポスターを玄関に掲示している。町民文化祭、神社の夏祭り、運動会、学習発表会等積極的に参加させて頂いている。又町内会入会にむけ話し合いを持ち入会検討中である。	町内会に加入しており、文化祭・神社夏祭り・小学校運動会・学習発表会などに参加し地域交流を深めている。学童下校時に利用者や職員による見守りパトロールや、七夕まつりに子供たちへお菓子をプレゼントするなど、日頃より地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で事業所の送迎バスを活用し、町内会の方を対象に「おかいものバス」を提案し、地域の状況に適したニーズを把握するために話し合っている段階です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域からの発言で運営推進会議でお買い物バスについて提案をし、行政、町内会と連携をとり進めている段階です。	定期的に行政・町内役員・家族などと運営推進会議を開催し報告や話し合いを行っている。議題により専門職の参加を促し、そこでの提案・意見などをサービス向上に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	24時間テレビチャリティー夏祭りを開催し主旨を理解して参加して頂き用具の貸し出し等協力を頂き、また募金活動の結果を町広報に掲載している。また地域のお祭りへの協力、町と合同で虐待防止の研修会を開催している。	事業所状況報告など連絡を行い、市町村主催研修会へ積極的に参加している。相談できる協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは一切身体拘束をしていない。ヒヤリハット、事故報告書やミーティングや道市町村事業所主催の研修に参加したり声掛けが正しいかスタッフ間で気づき、注意しあうようにしている。また、その人の行動を拡大する為に、ドクター、ナース、ご家族様と話し合いし、相談し減らしていくような対応している。	身体拘束マニュアルを整備し勉強会を行っている。言葉の抑制については時間を空けず注意を行ったり、話し合いを行っている。市町村主催の研修などを活用し、利用者に対し辛い思いをさせないケアに全職員で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の道や市町村主催の研修会に参加している。更に自事業所でも研修会を開催している。また身体チェック表を作成し活用している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	3名の方は行政書士、包括、弁護士と連携をとり相談しながらすでに使っている。職員には冊子を利用し今後出てくる利用者に対して勉強中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は利用者や家族の都合にあわせて十分な説明を行っている。また改定時には文章を出し十分な説明を行っている。説明時には不安、疑問がないか話しやすい雰囲気から引き出そうとしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情の窓口やホーム以外の連絡先を記載している。センター方式を使い入居者様、ご家族様の声を反映している。又年2回の家族アンケートを個別の内容にし実践し活用しながらご家族様の思いを知り、糸口として活用反映させている。	苦情窓口は重要事項説明書に記載し、意見・要望を管理者や職員は聴きとる努力を常に心掛けている。個別内容アンケートを年2回各家族へ配布・回収し、そこでの意見・要望を介護計画や運営に反映させている。	年2回の個別内容家族アンケートは、本人のことをより良く知り得ることと、運営に関する貴重な意見を頂ける、素晴らしい取り組みと思われる。今後については、アンケート内容と回答を開示し、より開かれた事業所となるよう期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者の面談、月1回の管理者会議ホーム内でのミーティング、常日頃からのコミュニケーションを大切に意見を聞く機会を設けている。また、研修報告書、議事録、立案書にあたってスタッフを活かす機会を持ち、理解助言をしている。	年2回代表者と職員は個別面談を行い、代表者は資格取得にも協力的である。管理者は日常的に聞く機会を設け、定期会議・ミーティングでも意見や提案を聞き、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い目標設定をし、上半期下半期での振り返りを行っている。また資格取得を推進し技術向上に努めている。また上半期、下半期でスタッフ1人、1人と話し合いを持ち、スタッフの意見、考えをすいあげるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	北海道GH協会等の研修をすすめている。また、研修内容は力量に合わせてシフトを調整している。年間計画として年に2回の社内研修を実施している。毎月勉強会を他部署と共同で事業所内で行っている。また管理者を対象とした研修会や、研修をうけたスタッフはそれにとどまらず、伝達研修をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の福祉施設と合同で勉強会を開催、夏祭りでの協力などし交流している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問にて関係性を築き、センター方式を活用し情報を共有し家族からは生活習慣等を小さなことでも聞き、本人からは聞きだすようなコミュニケーションを多くとり安心に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で困っている事、不安、要望に対して、どのようなケアを行って、どうだったか家族に報告し、そこからまたケアの方向性を導き出し家族の協力を得ながら利用者が1番良い方向になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センター、居宅支援事業所、医療機関と連携し協力を得ている。当事業所には居宅、DS、SSがあるので担当者に引き継いでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式を活用し生活歴などなじみのある生活が継続的にできるように支援している。一方的な支援ではなく、支え合う環境作りにも努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	週1回以上のブログや月1度のハッピー通信では本人からご家族にメッセージを書いている。家族会主催の花見会には本人、家族、スタッフが参加させていたでいる。また誕生日等ご家族と一緒に外出し食事をしたり、かかりつけ医に家族と受診したりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式にてご本人のなじみの場所や関係を確認、把握している。近隣スーパーに買い物きた知人や友人が気軽に立ち寄り、玄関前ベンチやリビング、自室で談話されている。お盆、正月、結婚式、法事などへの外出、正月には家に帰っておせちを頂き、お盆は仏壇に手をあわせたりしている。また、誕生月には要望をきき、スタッフが必要な場合には付添、ご家族と食事をしている。	以前通っていた美容室へ出かける利用者や、お盆・正月に外出または外泊を楽しむ利用者や、隣接のスーパーに知人・友人が買い物後寄って共に時間を過ごしたりと、本人を支えてきた関係が継続できるように支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	入居者様どうし気のあうかた同士で外出している。 皆ですごせるリビングでテレビを見たり、少人数でも すごせる空間があり、団欒したり一緒に料理や買い 物、散歩、外出したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係 性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経 過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても入院先への面会や、ご家族へは いつでも相談して下さいと声をかけている。また退所 されたご家族様が日めくりカレンダーを届けてくれ る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	センター方式を使用し、希望、意思の把握に努めてい る。また日々の関りの中で言葉や表情、しぐさを観察 し、思いや、希望に気づけるように努めている。	普段の何気ない会話や仕草から、一人ひとりの思い や暮らしの希望・意向の把握に努めている。困難な 場合は家族からの情報を得て、本人本位に検討して いる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	センター方式を活用し本人から聞き出し、ご家族の話 に耳を傾け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	ご家族様に協力して頂き、ご自宅での日々の暮らし の様子を収集し支援に活かしている。また記録やパ イタル、水分、排泄、食事等、チェック表に毎日記入 し状態の把握をしている。日中、夜間の申し送りを共 有している。グループホーム日誌に記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介 護計画を作成している	カンファレンス、モニタリングを行いケアプランを作成 している。家族の協力を得ながら時にケアのあり方 については色々な方法を模索するようにしている。	連絡帳、カンファレンス、モニタリングをはじめ本人 や家族の意見・要望などを取り入れながら作成して いる。職員間の気づきや意見を話し合い、本人らしく 暮らせるような介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を1カ月毎、個別に月間要約にまとめて いる。他にも連絡帳を使用し常に情報を共有するよ うにしている。それを元にモニタリングやカンファレ ンスを行い、ケアプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに 対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支 援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望にそって個別で買い物や外出したり、誕生月 にはご家族と一緒に出かけたり、毎月お墓参りや昼食 外出にでかけたり、その都度要望にそった支援をし ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、 本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし を楽しむことができるよう支援している	民謡ボランティア、学童の子ども達が来所したり、防 火訓練、体験学習、町民文化祭、地域のお祭り、イ ベントに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、皮膚科、眼科、歯科が定期的に往診にきている。入院施設がある、ななえ新病院、なるかわ病院と連携している。入所時にはかかりたい医療機関を聞き意向を取り入れ通院介助している。また入院時や退院時のドクターとの面談はご家族様と一緒に、説明を聞き、連携、協力体制を築いている。	入居時に本人・家族との話し合いを行い、事業所のできる範囲内の受診支援を行っている。定期的な内科などの往診や看護師による健康管理を行い、日々不安のない生活維持ができるように配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回看護師による健康チェックを行い、健康管理を支援してもらっている。受診、往診、薬、病気や様子を相談できる体制をとっている。また24時間連絡体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際介護要約を添付し、毎日スタッフが交代で様子を見に行き不安の軽減に努めている。医師との話し合いの場には家族の了承を頂き同席し家族、ソーシャルワーカーとも連絡をとりあい早期退院に向けて相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期対応指針を基に利用開始時の契約時に家族に説明し同意を得ている。重度化がみられた場合は代表、職員、医師、看護師、家族などで話し合いを重ね、ホームでできる事、出来ないことを伝え、合意を図りながら支援している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を契約時に説明し同意を得ている。必要と思われる時期に家族・医療関係者・事業所を交え話し合い、家族などの望む支援と事業所のできる事、できないことを伝えながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網を作成している。又応急手当で初期マニュアルがあり、状況から予測される場合にはミーティングでも再確認している。社内研修でも予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いで避難訓練を年2回実施。町内会とも災害時の支援体制を話し合い、協力を得ている。スプリンクラーも設置し点検を行っている。	年2回消防署・地域住民などと連携を図り、日中以外の夜間想定避難訓練も行っている。災害時の備蓄品も日頃より準備し、地域の協力体制を築きながら災害対策を進めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	センター方式のシートを活用し誇りやプライバシーに配慮し対応している。また知りえた情報を他のご家族や外来者に話さないことは当然の義務であり、日常のケアでも声掛けなどの内容にも注意している。	本人の気持ちを尊重し、自己判断がしやすくプライバシーに気をつけた言葉掛け・対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴や表情、サイン、言葉からその人の思いや希望をセンター方式を活用し本人からききとりし個人に合わせた自己決定できるように支援をいっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、外気浴など希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、化粧、訪問理容を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は見た目を重視し外注にだし、季節を感じられる食事を提供し、利用者様には個々の能力に応じ配膳、片づけを職員と一緒に、職員も食事を共にしている。また、給食会議や検食簿で利用者の嗜好を伝えている。	栄養面や見た目などを考慮し、食事作りは外部に頼んでいる。利用者の役割りとしては、食器拭きなどできることを職員と行っている。誕生日は一人ひとりの希望に添った個別外食などを行い、食べる楽しみと生活の張りを持ち続ける支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事チェックを実施している。栄養士が栄養管理しており、嚥下や塩分制限、糖尿病食等、個々の状態に応じて相談できる体制になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後習慣とし行っている。声掛け、見守り、介助等、その人に応じた対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し日中はリハビリパンツからパンツに替えたり、夜間のオムツからリハビリパンツに替えて対応し個人の力をいかした自立支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けを行い、リハビリパンツ・パットなどの使用を段階的に取り除くことを全職員が心掛けている。自立してトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師、栄養士に相談し、個々にあった下剤の見直しをし、毎日の水分量等を把握し相談している。またおやつに乳製品を提供したり、水分をこまめに提供したり、散歩や体操等行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その都度状況、天候でも対応しさらに、曜日や時間にとらわれず希望に対応している。	夜間入浴希望者には二人体制時間に対応し、夜間入浴を楽しんでもらっている。また、各ユニットの浴室を交互に利用するなど工夫を凝らし、浴槽内にフルーツを入れたり、楽しんで入浴ができるような支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や散歩をし生活のリズムを整えている。また本人の希望に応じて、日中休んで頂くこともあり、あえて就寝時間は決めていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋で容量、用法を確認し更に、薬作りや服薬時は職員2名体制での確認をしている。新しい薬を処方された時にはドクターに副作用を確認し連絡帳、医師記録に記載し症状変化に留意している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプラン、家族支援、ご家族アンケートをもとに、ご本人の好みやなじみの場所を聞き月に1回昼食外出やおやつ外出にでかけている。また鉢植えの水やり等行なっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を大切にしその時々に合わせて、ドライブ、ピクニックや、果物狩り等を行なっている。また利用者の希望に添って散歩や外出も状況にあわせ行なっている。	希望に添った買い物や散歩へ出かけ、外気浴などを楽しみサクランボ狩り・ぶどう狩り・ドライブにも出かけている。また、家族会主体の花見へ出かけ家族などと協力しながら外出の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ではお金は持っていないが、スーパーで買い物した時にはお金をもつ事の大切にし、利用者に支払って頂けるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	月1回のハッピー通信のコメントや、遠方の家族には本人にきいたりして電話をかけている。またテレビ電話出来るシステムを導入している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	早め、早めのしつらえ利用者に合わせた室温、空間を利用してゆったりとすごせるように工夫している。他にも湿度計で過ごしやすい状態にするために空調や加湿をしている。	天窓からの光りを浴び大小のソファが置かれゆったりとした居間と、廊下には仲間と寛ぐための椅子が置かれ居心地よく過ごせる工夫がされている。台所は対面キッチンで利用者の様子が把握しやすく、室内は華美に飾らず季節の物をさりげなく取り入れ、室温などに配慮した支援を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、食卓、居室前ソファ等少人数、多人数のものを作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にお願ひし、仏壇や使いなれたタンス、大切な化粧ケース等色々持ち込み安心されている。観葉植物、鉢、写真等をもって頂きなじみの空間づくりの工夫をしている。	居室は洋間・和室の2タイプがあり全室洗面台が取り付けられ、仏壇・置き物・写真・観葉植物など本人の好みの物を備え落ち着いた居室となっている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはわかるように果物を掲示している。またフロア、浴室、トイレに手すりがあり、浴室にはシャワーチェア、滑り止めマットが用意され、各居室のには洗面台が設置されている。床はバリアフリークッションフロアになっている。階段昇降が困難な方にはエレベーターが設置されている。また、歩行状態にあわせ居室空間も動きやすいような物の配置にしている。		